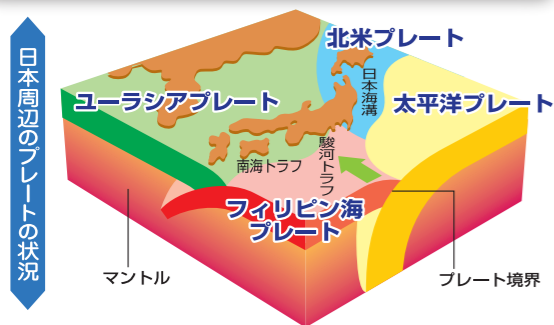


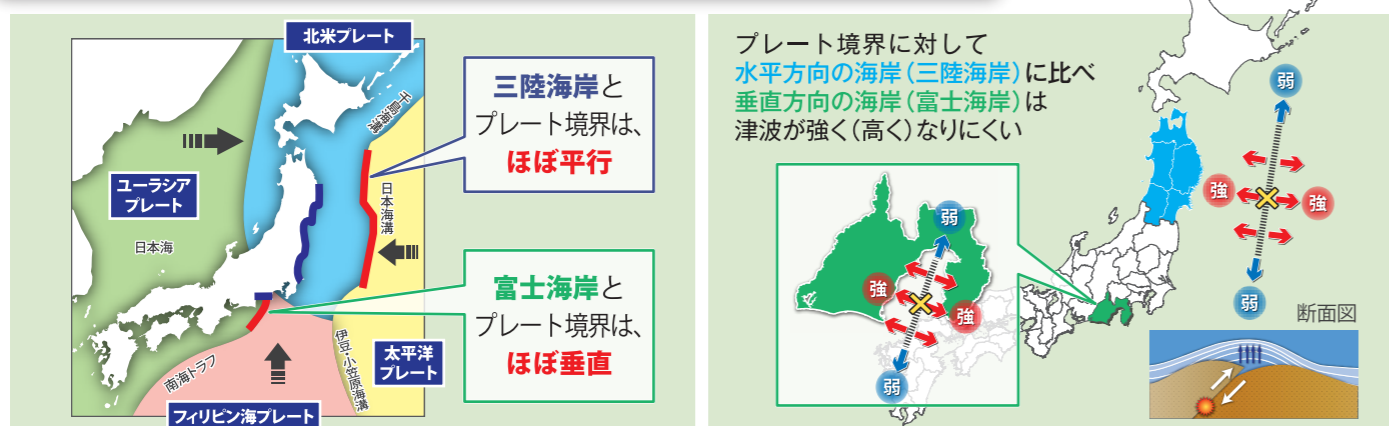
津波

東日本大震災では、数々の津波災害の映像が報道されました。これにより、富士市を襲う津波も、東日本大震災と同じ津波をイメージしてしまいがちです。しかし、襲う津波にも“地域性”があります。富士市を襲う津波の特徴とはどのようなものでしょうか。

津波発生メカニズム



東日本大震災との比較から学ぶ富士市の津波の特徴



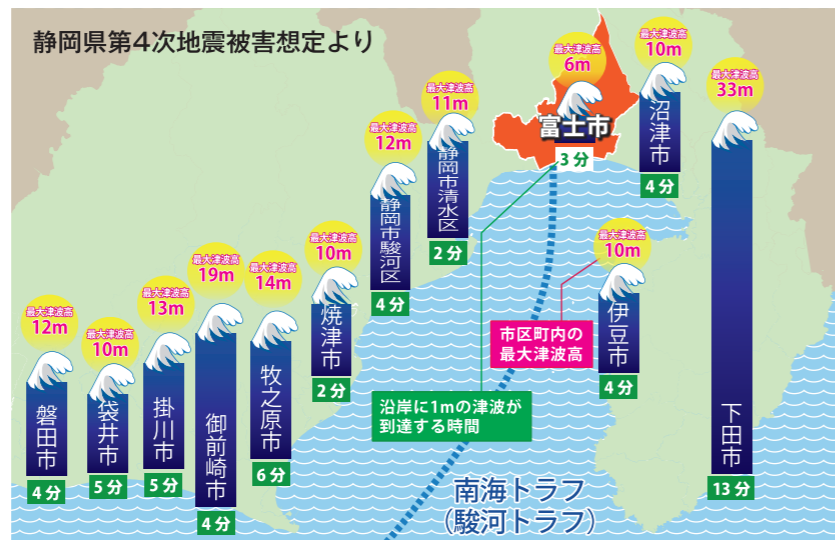
東日本大震災を引き起こしたプレート境界(日本海溝)と東北地方太平洋沿岸は「ほぼ平行」の位置関係にあります。一方、南海トラフ巨大地震(東海地震)を引き起こすと想定されている南海トラフ(駿河トラフ)と富士海岸の位置関係は、ほぼ垂直です。

津波は、プレート境界に対して、平行な位置関係にある海岸で高くなる特徴があるため、東日本大震災では甚大な津波被害をもたらされました。一方、駿河湾内で発生した津波も、平行方向に伸びる海岸では強くなりますが、垂直方向に伸びる富士海岸では、高くなりにくい特徴があります。

次に到達時間の特徴です。東日本大震災では、陸地から離れた沖合いを震源域にして発生したため、津波到達まで、比較的時間の余裕がありました。

一方、南海トラフ巨大地震(東海地震)は私たちの暮らすすぐ近くを震源に発生するため、津波の発生する場所も陸地の近くになります。このことから、地震発生から、津波到達までの時間は非常に短くなるのが想定されています。

富士市の津波の特徴
高くなりにくい、
到達時間が非常に短い!



富士市の津波浸水の特徴

富士市の海岸線約10kmに渡り、海拔17mの防潮堤が建設されています。これは、東日本大震災で大きな被害を受けたコンクリートの直立式等の防潮堤と違い、盛土を厚さ50cmのコンクリートで覆ったもので、車が通れるほどの幅があります。

また、東海地震の揺れを想定した耐震補強工事や老朽化対策などのメンテナンスも実施しています。

一方、田子の浦港周辺には船舶入港のため防潮堤がありません。

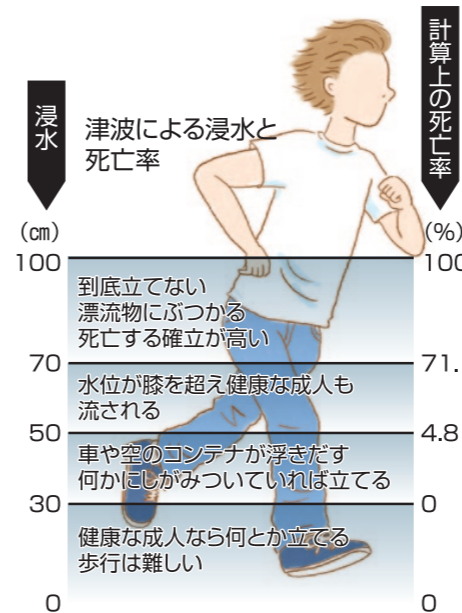
これにより、田子の浦港から入った津波が、港や沼川周辺であふれる想定になっています。(浸水想定エリアはP27以降でご確認ください)



写真提供：中部地方整備局清水港湾事務所

50センチの津波でも流される!

津波の浸水深が50cmでも、人は流されてしまいます。さらに、1mの津波に巻き込まれると死亡率はほぼ100%といわれています。逃げ遅れた場合には、無理をして遠くの避難場所を目指す必要はありません。近くの建物の上層階へ避難しましょう。



津波避難ビル



富士市では、津波避難場所の整備として津波避難タワーの建設のほかにも、基準を満たした構造と高さを持った既存の建物を“津波避難ビル”として指定しています。

津波避難ビルの所在地はP27以降に表示されていますので、ご確認ください。

津波避難マップ



平成26年4月、元吉原地区・田子浦地区・今泉地区の一部には津波避難マップを配布しました。

平常時から避難経路を確認し、防災訓練には実際に避難場所への避難訓練を取り入れましょう。

津波注意報・警報の種類

予報の種類	発表される津波の高さ		とるべき行動	避難情報
	数値での発表	巨大地震の場合の発表		
大津波警報 (特別警報)	10m 超	巨大	避難対象地域にお住まいの方や、沿岸部や河川沿いにいる人は、ただちに高台や津波避難ビルなどの安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	市は、避難対象区域に、避難勧告・避難指示を発令します。(対象町内会(区): 鈴川本町、鈴川町5、鈴川町4、依田橋、前田、前田新田、鮫島、田子、小須、中丸浜、中丸丘、江川)
	10m			
	5m			
津波警報	3m	高い		
津波注意報	1m	なし	海岸部にいる人は海岸からすぐに離れてください。解除されるまで海岸には近づかないでください。	避難勧告・避難指示は発令しません。